

## 会 長 あ い さ つ

会 長 久 保 芳 信

日本介護クラフトユニオン第19回定期大会にご参集いただきました代議員、傍聴の皆さん大変お疲れ様です。また、日頃は日本介護クラフトユニオンの諸活動にそれぞれの立場でご理解、ご協力をいただいておりますことにお礼申し上げます。

また、ご来賓の皆様におかれましては、大変ご多忙の中で私達の定期大会にご臨席を賜り誠にありがとうございます。組織を代表して御礼申し上げます。

大会の冒頭にあたり、私からこの1年間の活動に関わる成果と課題、本大会議案に関わる運動の方向性、並びに私達を取り巻く直近の諸情勢について所感を述べさせていただきます。

今年度は予想を超える猛烈な豪雨が発生しており、住宅の損壊・浸水という甚大な被害をもたらしました。また昨年4月に発生した熊本県を中心とする地震災害、そして6年半前の東日本大震災も、復興は道半ばの状況にあります。被災されました方々に対してお見舞い申し上げますと共に、1日も早い復旧・復興をお祈りします。

安倍首相は9月28日臨時国会の冒頭で「衆議院の解散」を告げ、現在選挙期間中となっています。解散の理由に核実験・弾道ミサイル発射を繰り返す北朝鮮と少子高齢化への対応を挙げ、「国難突破解散」としています。

そのため、政府・与党が目指していたはずの労働基準法改正、いわゆる「働き方改革」などの法案はいずれも棚上げされました。一時期、マスコミに「連合が高度プロフェッショナル制度を容認」との報道がありましたが、連合もUAゼンセンも本来の立場は変わりません。いくら働いても残業代ゼロの「高度プロフェッショナル制度」の導入と、労働時間の規制をなくす裁量労働制の拡大には本来反対しています。

このように、多くの課題が山積している中での今回の衆議院選挙は、争点として国民に何を問うのか全く意味不明であります。結局、安倍一強政権を続けるための選挙としか思えません。衆議院選挙はこれからの日本をどうするのか判断を問う選

挙でなければならないと思います。組合員の皆さんには、未来に向けた一票を投じていただきたいとお願いするところです。

さて、私達にとってかかわりの深い「介護保険制度」も発足から17年。来年の2018年は、3年毎の介護保険制度と介護報酬の見直しが同時に行われることになっています。

NCCUは厚生労働省社会保障審議会介護保険部会で、「2025年は介護人材が38万人不足すると推定されており、介護保険制度を持続させるためにも不可欠なのは人材である。人材確保するために介護従事者の賃金をはじめとする労働条件を向上させることが重要であり、とりわけ介護報酬引き上げが何よりも必要である」と強く訴えてきました。

また、民進党の介護に関する会議や連合の各種集会などでも、積極的に介護の現場状況の報告や意見を述べさせていただきました。8月28日には加藤勝信厚生労働大臣に面会し、介護報酬引き上げを含めて6項目にわたる介護現場の声を、「介護報酬改定に係る要請書 ～介護人材確保のために～」として、UAゼンセン松浦会長、川合孝典参議院議員と共に提出しました。

また要請書の後押しの意味も込めて行った署名活動では、「生涯の仕事として生活設計が描ける介護報酬水準としてもらいたい。利用者と介護従事者が理解及び納得できる介護報酬に設定してもらいたい」という声を厚生労働大臣に届けるために、NCCUの組合員の皆さん、UAゼンセン加盟労組の仲間をはじめ、組合のない介護現場の方々にも協力いただき、昨日13日までに24万3,665筆をお預かりしました。

当初は本大会までに厚生労働大臣へ提出して、ここでご報告したかったのですが、衆議院議員選挙の後、次期厚生労働大臣が確定してから提出したいと考えているところです。まだ間に合いますので、もしお手元に署名用紙が残っていましたら、NCCUへ送ってくださいようお願いいたします。

次に組織拡大と組織強化に触れたいと思います。

NCCUは日本では数少ない職業別労働組合です。2000年に始まった介護保険制度のもとで、業界・企業の基盤づくりと働きやすい労働環境の整備、そして行政への統一的対応を可能とするため、介護に働く仲間の組織化により、企業の垣根を越えたクラフトユニオンが誕生し活動を展開してきました。

発足時、組織拡大は順調にスタートしましたが、昨今は組合員が減少に転じ仲間づくりも伸び悩んでいました。そこで、昨年第18回定期大会では、「組織拡大」を活動方針の最優先事項に位置づけ、新たに組織拡大の部門を設けて組合員10万

人を目標としました。その結果、この1年の成果として多くの仲間の参加があり、10万人組織に向けて一步前進することができました。

これから本格的に迎える超高齢社会の中で、介護に働く仲間を守り、魅力ある介護業界にするために、NCCUがなくてはならない組織となる盤石な態勢をつくらなければなりません。引き続き組織化の努力を続けていきます。

組織の拡大とともに大切なのは組織の強化です。「NCCUあり方委員会」は、2012年11月に各種の規約・規則・規定やマニュアル関係の整備を終え、その役割を一旦休止しました。その後4年が経過し、組織の拡大や環境変化に対応する中で基本的な考え方やルールの整備が求められ、「NCCUあり方委員会」を再開することとなりました。発信文書・財政・総支部活動・分会活動のあり方等を見直す協議が進み、本日の議案として、組合費の上限額引き下げを含む規約・規則の改正を提案させていただきますので、ご審議のほど、よろしく願いいたします。

総支部活動と分会活動に触れたいと思います。

総支部区分を9総支部から8総支部に見直してから1年間が経過しました。移行当初はとまどいやご苦勞をお掛けしましたが、総支部役員や組合員のご協力を得て過去の問題点などが解消されつつあると思います。

各総支部活動は、運営運委員会では協議を重ねステップアップ研修会やイベントなど工夫を凝らし充実した内容となっています。総支部の活動は、組合員の職場と生活基盤を中心とした支部活動にシフトして、地域に根差した身近なNCCUとなるよう進めたいと考えています。

また分会活動では賃金をはじめとした労働条件引き上げに努力いただいておりますことに敬意を表します。それぞれの立場で引き続きのご協力をお願いいたします。

次に労働条件闘争について触れたいと思います。

NCCUでは2009年から「介護従事者が希望と誇りを持って、働くための賃金水準は、月給者も時給者も全産業平均を下回ってはならない」という理念に基づき、2月の第17回中央委員会で要求内容を決定して2017労働条件交渉における労使交渉を進めてきました。しかし現在、月給制の介護従事者と全産業平均賃金との間は約85,000円も開いています。また、介護人材不足は深刻度を増しており、有効求人倍率を見ても、介護人材不足は全産業平均の2倍以上の高い数字で推移しています。人材不足の要因は、NCCUの調査でも明らかで、不満の1番目に挙げられているのが賃金をはじめとする労働条件の低さです。従って、介護保険制度をこのまま維持するためにも介護従事者の賃金をはじめとする労働条件を引き上げることは急務であり、NCCUは引き続き強力で推し進めなければならない

と考えています。

次に調査活動の成果について触れたいと思います。

NCCUでは、毎年行っている「就業意識実態調査」、「賃金改善調査」をはじめとして、生活支援・介護予防サポートなどの総合事業が2017年4月より実施されることに伴い「総合事業に関するアンケート」を実施しました。また、NCCUホームページのアンケート機能を使った「介護保険制度の改正に関するアンケート」や「高齢者虐待防止に関するアンケート」等の調査結果についても、ホームページや記者報告会などを通じて公表してきました。

これらの調査結果は、NCCUの政策活動に直接反映されており、厚生労働大臣に提出した要請書や今回の署名活動、さらには労使の会の集団協定締結にも結びついています。また、政治活動にも生かされ、UAゼンセン組織内議員の川合孝典参議院議員が、参議院厚生労働委員会における介護保険制度改正の審議の中でNCCUの代弁者として質疑を行い、その結果、附帯決議の第6項として「平成29年度から実施している介護職員の処遇改善の効果の把握を行うとともに、雇用管理および勤務環境の改善を強力に進め、必要な措置を講ずる」と明記されるなど、大きな成果を残しています。

次に「介護業界の労働条件向上を進める労使の会」略称・労使の会に触れたいと思います。

2年目の取り組みとなる労使の会では、昨年「ハラスメント防止に関する集団協定」に引き続き「ご利用者虐待防止に関する集団協定」を締結し、労使双方の代表による記者報告会を行いました。締結された内容や主旨については、一般紙をはじめ専門紙やネットニュースなどに取り上げられ様々な反響がありました。労使の会は介護業界に対する波及効果を考えており、広く世間に周知される「労使の会」として、力を発揮していかなければなりません。

次に政治活動課題に触れたいと思います。

介護従事者の労働環境に直結する介護保険制度をはじめ、日々の暮らしや人生設計に関わる社会保障制度や税制は、政治と大きく結びついています。現在は衆議院議員の選挙期間中ですが、私達はすでに再来年の参議院議員選挙も見えています。今年9月開催のUAゼンセン第6回定期大会では、2019年7月の第25回参議院議員選挙にUAゼンセン組織内候補予定者として『田村まみ』氏を擁立することが決定しました。川合孝典参議院議員と同様に、NCCUの代弁者として国会に送り出さなければなりません。組合員のみなさまのご協力をお願いいたします。

次に介護業界のイメージアップの取り組みとして、映画「ケアニン」に触れたいと思います。

介護の仕事は身体的にも精神的にも負担は重いものですが、ご利用者からの「ありがとう」という感謝の一言がやりがいにつながる仕事だと思います。また、介護は高齢となった人の人生に寄り添い、人生の最後のお手伝いをするすばらしい仕事にも関わらず、3K（きつい、汚い、給料が安い）等と世間でのイメージが良くありません。NCCUはこのイメージを払拭して介護のイメージがアップすることと考え、中央執行委員会での承認を得た上で、映画「ケアニン」の特別協賛を行いました。映画「ケアニン」は介護を明るく描写しています。6月17日以降、全国26の映画館で上映され、映画館での公開がそろそろ一段落しつつある現在、各地で自主上映会が開催され始めています。NCCUでも今後、総支部や分会の集まりなどを通じて映画「ケアニン」を観賞できる機会を設けていく予定です。ぜひご覧いただきたいと思います。

最後に、NCCUが行う重要な活動は先に述べた以外にも、共済、広報、教育・男女共同参画、社会貢献活動などたくさんあります。その取り組みについては、本日の2017年度活動報告の中でご確認をお願いします。

さて、本大会スローガンは、2014年から掲げている「NCCU運動でつくろう、日本の介護『夢・希望・未来』」です。組合員全員で日本の介護を作って行こうではありませんか！

2018年度もNCCU運動を着実に前進してまいりたいと思います。今後も組合員の皆さんにはNCCU運動へのご理解、ご協力をお願いし、私からの挨拶とします。

それでは、本日長時間となりますが、宜しくお願ひいたします。

組合員の幸せのために共に頑張りましょう。

ありがとうございました。

以上